

クラス	311	担当教員	齋藤一晴
テーマ	歴史学・社会科教育から対話、共生、子どもを考える		
著書・論文	「日中戦争下の華北における日本語教育の実相」現代史料出版、2024		
研究課題等	「歴史学や社会科教育にとって子どものしあわせとは」ミネルヴァ書房、2023		
	「日中授業交流を通じて平和とは何かを考える 歴史教育者協議会・日中交流委員会の活動を事例として」『平和創造学への道案内 歴史と現場から未来を拓く』法律文化社、2021		
ゼミナール概要			
キーワード：子ども 暴力 尊厳 戦争 植民地支配 歴史認識 比較教育			
目的、内容、方法、授業計画等：			
私の専門は、戦争や植民地支配をどのように子どもに教えるか、国境をこえて次世代に伝えるか、というものです。また、そうした時代を、子どもたちがどう生きたのか、ということについても研究しています。 戦争や植民地支配は、暴力によって子どもたちの未来を壊し、尊厳を踏みにじり、しあわせを奪います。また、心身に障がいを持つ人間を無数に生み出します。子どもの視点から、戦争や植民地支配を学び直してみませんか？暗記や試験のためではなく、将来、自分が戦争や植民地支配を教え、伝える立場になったとき、何をどう語るのか、一緒に考えてみませんか。それは、子どもたちにしあわせのあり方を語ることにもつながらないでしょうか。 ゼミでは、①テキストの輪読、②班発表、③フィールドワークなどを行います。ゼミ全体で取り組む年間テーマと、各自の問題意識にもとづいた個人テーマを並行して深めていきます。例えば、ゼミの全体テーマは、「原爆投下を世界はどう教えているか」。個人のテーマは、人それぞれですが「子どもの尊厳と歴史教育」、「子どもがみずから問いを立てるために社会科教育には何が求められているか」、「知多半島における戦争の継承」といった感じです。 フィールドワークは、大学周辺から名古屋市内、東海三県へ。さらには全国、海外も射程に入れて動きます（全国、海外は希望者の参加が基本です）。 ゼミは学生生活の根幹です。仲間との時間を大切にできる方を募集します。また、日本史概論と日本史特講の受講を希望します。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミは、高校までの社会科の成績、知識量、GPA、卒業後の進路などに関係なく募集します。自分なりの「問い」を探したり、深めたりしてみたい方、お待ちしております。ゼミはおそらくアットホームで、和気あいあいとした雰囲気になると思います。大学院への進学や海外留学を希望する方は、相談にのります。 歴史学や社会科教育というと、暗記、難しい、役に立たない、といったイメージかもしれません。ゼミでの学びを通して、そうした「食わず嫌い」を克服できた方だと思います。卒業後も継続してみずからの「問い」を深めていける広い教養を身につけることをめざします。また、他のゼミとのコラボ企画も模索します。研究、活動領域を超えることで初めて理解できること、経験できることなどがあると思います。 ゼミに関する問い合わせは、メール（kazuharu@n-fukushi.ac.jp）か、研究本館 4 階の 405 研究室までお願いします。また、ゼミに興味がある方は、齋藤まで連絡のうえぜひ「お試し参加」してみてください。先輩たちと一緒に待っています。			